

# ガストースは「詰まるから使わない」という考え方と、 「ガストース無しでは品質と生産性を維持できない」 という考え方について

プラスチック成形工場では、ガスベントやガス抜き部品に対する考え方が大きく二つに分かれています。

一つは、「ガストースは必ず詰まる。だから使わない方が良い」という考え方です。

もう一つは、「ガストース無しでは、現在の品質・生産性・無停止成形を維持できない」という考え方です。

この違いは単なる設備の好みではありません。

工場の未来、企業の存続、人材不足への対応まで関わる非常に重要なテーマです。

---

## ① 「ガストースは詰まるから使わない」という考え方

この考え方を持つ人の多くは、長年の経験を積んだベテラン技能者です。

- 成形条件調整
- 射出速度の変更
- 保圧調整
- 温度調整
- 金型温度変更

などを駆使しながら、不良を抑え、納期を守ってきました。

つまり、

「成形条件を調整することこそが技能である」という価値観を持っています。

確かに、これは日本の成形加工業界を支えてきた重要な技術です。

しかし問題は、その技能が“人”に依存していることです。

---

## ② ベテラン依存型工場の大きなリスク

現在、多くの成形工場では高齢化が急速に進んでいます。

長年現場を支えてきた技能者が、

- 定年退職
- 高齢化
- 人材不足

によって現場を離れ始めています。

すると何が起こるか。

今まで当たり前のように維持できていた、

- 品質
- 生産性
- 稼働率
- 納期対応

が突然維持できなくなります。

そして現場では、

- チョコ停頻発
- 不良増加
- 条件調整の迷走
- 夜間停止
- 若手が対応できない

という問題が一気に表面化します。

つまり、「人の経験だけで成り立っていた工場」は、ベテランがいなくなった瞬間に崩れ始めるのです。

---

## ③ 「詰まる前に対応する」という考え方

一方で、ガストースを積極的に活用している工場は考え方が違います。

彼らは、「詰まるか、詰まらないか」ではなく、「詰まる前にどう対応するか」

を重視しています。

つまり、

- 定期メンテナンス
- ガス発生量の把握
- 成形条件固定化
- 低圧成形
- 吸引対策
- ガスベント管理

をシステムとして考えています。

これは、「技能者の勘」に頼る工場ではなく、

「誰でも安定生産できる仕組み」

へ変えていく考え方です。

---

## ④ 成形条件調整型工場の限界

成形条件調整で対応する工場は、一見問題なく動いているように見えます。

しかし実際には、

- 条件変更が頻繁
- 樹脂ロス増加
- 立上げ時間増加
- 夜間停止
- 属人化

が起きています。さらに問題なのは、条件調整を繰り返すことで、「本当の原因」

が見えなくなることです。

本来は、

- ガスが抜けていない
- ベントが不足している
- 排気能力が足りない

ことが原因なのに、成形条件変更でごまかしてしまうため、根本改善が進みません。

---

## ⑤ これからの時代に必要なのは「技能の見える化」

これからの成形工場は、「職人が頑張る工場」ではなく、「誰でも安定して生産できる工場」へ変わる必要があります。そのためには、

- 成形条件固定化
- ガス抜き改善
- 瞬間吸引
- メンテナンス管理
- 無停止成形

が極めて重要になります。

つまり、「設備と仕組みで品質を守る」時代が変わっていく必要があるのです。

---

## ⑥ ガストースは“万能”ではない。しかし未来型工場には必要

当然ながら、ガストースもメンテナンス不要ではありません。

しかし重要なのは、「詰まるから使わない」ではなく、「詰まる前に管理する」という発想です。

これは、

- 自動車のオイル交換
- 工作機械の保守
- 生産設備の点検

と同じです。

管理を前提にすれば、

- 長時間安定稼働
- 無停止成形
- 条件固定化
- 若手でも対応可能

という大きなメリットが得られます。

---

# まとめ

これからの成形工場に必要なのは、「ベテランの勘に頼る工場」ではありません。

必要なのは、「誰でも品質と生産性を維持できる工場」です。

そしてその実現には、

- ガス抜き改善
- ガストース活用
- 瞬間吸引
- メンテナンス重視
- 成形条件固定化

が重要になります。

ベテラン技能者の経験は非常に貴重です。

しかし、その技能を“人”だけに頼ってでは、企業の未来は守れません。

これからは、「経験を仕組みに変える時代」なのです。